

1988年度下半期 報告書

目次

(..... の後の数字は原本の頁)

冬合宿偵察(八ヶ岳)	1
春山偵察(北ア遠見尾根)	2
八ヶ岳広河原沢第3ルンゼ	2
八ヶ岳(ジョーゴ沢、大同心)	2
甲斐駒ヶ岳摩利支天S状ルンゼ	3
八ヶ岳大同心雲稜ルート(敗退)	3
冬合宿(八ヶ岳)	4
仙丈岳岳沢	6
穂高岳屏風岩東壁	6
八ヶ岳広河原沢(....)	6
唐沢岳幕岩	7
八ヶ岳大同心雲稜ルート雪辱戦(敗退)	7
八ヶ岳広河原沢第3ルンゼ~ジョウゴ沢継続	8
甲斐駒ヶ岳尾白川西坊主ノ沢	9
プレ春合宿(八ヶ岳)	9
谷川岳一ノ倉沢一ノ沢右壁左方ルンゼ・二ノ沢右壁	10
春合宿(遠見尾根)	10
鹿島槍ヶ岳北壁蝶形岩壁氷のリボン	10
ネパール・ヒマラヤ クスム・カンゲル峰北稜	11

(電子化註)

- 1) 英数字は半角で統一(但し、地名、固有名詞の英数字は全角)
- 2) 八ヶ岳、ハヶ岳、ハッ岳 → 八ヶ岳に統一
- 3) アイス・クライミング、アイスクライミングはアイス・クライミングに統一
- 4) クスムカンゲルはクスム・カンゲルとした。
- 5) 名前のイニシャル、漢字一文字表示は、フル表示とした。
- 6) 天気記号は○(快晴)、◎(曇)、●(雨)以外は漢字名に変換した。
- 7) 不明文字は*(全角)、*(半角)とし、背景を濃桃色とした。
- 8) 電子化作業にて挿入した文章は斜線とした。

山域 **ハヶ岳**
期間 10月26日～10月28日
参加 井上、高橋、坪井

10月26日 美濃戸～赤岳鉱泉～硫黄岳～天狗岳～中山～高見石～白駒池 天気 晴
美濃戸を8:00ごろ出発し、白駒池に17:00ごろ着く。長い一日だった。赤布を根石、天狗、などのポイントにつける。石がごろごろしている悪路が多い。
筆者は一日でくつずれを作り、膝は笑っているし、散々であった。
硫黄の風、滑落、大量の積雪期には雪崩もありうること
天狗の風、滑落の危険を確認しあう。

10月27日 白駒池～麦草峠～茶臼山～縞枯山～三ツ峠～横岳～
亀甲池—— 蓼科山荘 (高橋)
|
→ 天祥寺原～竜源橋→茅野駅(井上、坪井)
赤布をつけてまわる。筆者 亀甲池で give up。情け無し。面目無し。
井上先輩と共に竜源橋へ下山。親切なペンキ屋さんの車にヒッチハイクで乗せてもらい茅野駅へ。
高橋先輩は単独で蓼科山荘へ。

10月28日 蓼科山荘～蓼科山山頂～女神茶屋～滝ノ湯～茅野
単独の高橋先輩、麦草峠からついてきてしまっている犬がいるからさみしくもなく、山荘そばのテントでは一緒に寝たとか！
この麦草ヒュッテで飼っている犬には、冬合宿のときにも再会した。

2. 春山偵察 遠見尾根 10月31日～11月1日 参加メンバー 小野 内藤

この日は出だしから調子が狂った。朝電車の中で目を覚ますと電車が止まっている。季節外れの大雪で動けなかったらしい。明るくなった電車の中で何もすることが無くただボケーと過ごす。8時頃結局バスで行くことになり途中の駅で降ろされる。目的地の神城駅に着いたのは、11時ごろであった。テレキャビン乗り場に行くと、おじさんに上は凄い風だと教えられる。うえにいくとかぜはあるがいけそうなので出発する。
しかしいきなり腰までのラッセルになかなかすすまない。ようやく地蔵の頭の手前までいく。春にくる時にはこのあたりで雪訓を行う予定であったので、場所を捜す。捜し終えるとかなりの時間になっており、残りの時間、食料、天気、ラッセルなどを考えて撤退する。
悲しい山行であった。

3. 八ヶ岳広河原沢第3ルンゼ

11月27日 メンバー: 鮎沢(単独)

タイム: 学林 6:30(晴)～行者小屋 15:15(雪)

4. 甲斐駒ヶ岳黄蓮谷右俣

12月3, 4日 メンバー: 鮎沢(単独)

タイム: 12/3 横手 8:45(晴)～5合 12:45～黄蓮谷二俣B.P.15:30(快晴)

/4 B.P.6:30(曇)～駒本峰 12:05～横手 17:35(曇)

5. 八ヶ岳(ジョーゴ沢、大同心)

12/10～11 井上、松原(法政)遠藤(早大)恩田(上智)蛭田(日獣)山本(明学)、他3名
学生部遠征のためのトレーニング山行

9日 夜、市ヶ谷から車で出発

10日 曇 入山、赤岳鉱泉(B.C.) ジョーゴ沢でアイス・クライミング少々
私は遠藤氏と組む。1P リード。

11日 曇 各ルートに別れる。私は松原氏と大同心正面右ルートへ。

6:15 出発～7:15 大同心正面右ルート取付 7:45～10:45 ドーム基部～

2:45 撤退開始～3:50 大同心ルンゼ上部で懸垂下降～4:45 B.C.着、その後帰京

この日は大同心正面右ルートをつるべで登ったが、ドーム基部で他パーティーがひしめき合っており、松原がドームダイレクトルートへ移るのを提案、1P 左ヘトラバースし、同ルートへ。次の 1P を松原がリードするが、異常に難しく、恐ろしく時間がかかる。体重をかけたハーケンが抜けて約 4m 落ちたりする一幕も。私はフォローしながらよくリードしたものと感心した。時間制限もあって、私がこのピッチを登り切らない内に撤退開始。ドーム基部に戻り、そのまま右ヘトラバースしてから、一度稜線に出たあと大同心ルンゼ側を下降。1P 懸垂下降をしてから大同心稜を経て B.C.へ。皆待ちくたびれていたようだ。ここで河野OBに会う。時間が無いので会話もそこそこに下山。美濃戸の辺りに止めておいた山本(法政)OB のキャンピング・カーではおいしいお味噌汁をいただく。それにしても3時間も寒い中、ピレーを続けたおかげで根性がついた。(井上)

6. 甲斐駒ヶ岳摩利支天S状ルンゼ

12月11, 12日 メンバー: 鮎沢(単独)

タイム: 12/11 横手 8:45(晴)～5合 12:45～(黄蓮谷二俣を目指すが*****
****、退却)～7合 16:30(晴)
/12 7合 6:40(快晴)～8合 * 7:20～S状ルンゼ取付 8:00～** 10:45～駒本峰 11:25
(快晴)～横手 16:20

7. 八ヶ岳大同心雲稜ルート(敗退) 井上、内藤

12/14 曇 入山 茅野ー赤岳鉱泉(B.C.)

15 曇 7:00(出発)ー8:00 取付——9:00B.C.——ジョーゴ沢——3:00 のバスで帰京
2年生の内藤と雲稜ルートを目指すが、大同心稜を登り詰めると、取付は風がビュービュー
と吹いており、雪も舞っている。完全に実力以上と判断し、さっさと下り、ジョーゴ沢へ行く。
アイスピトンが無いので氷瀑は巻いて上部のゴルジュ帯まで行く。気温が高いためかあまり
しっかり氷っていない。赤岳鉱泉より下ると青空が見え、不完全燃焼の悲しみに打ちひしが
れる2人の背には哀愁の色(=BLUE)漂うガッシュブルムがあった。(井上)

8. 冬合宿報告 From 坪井

山域 八ヶ岳(赤岳鉱泉定着 北八ヶ岳～南八ヶ岳縦走)
期間 1988, 12/19 ～ 12/24
参加 小野、井上、高橋、内藤、岩原、坪井

12月19日 初日は、内藤先輩のドチョンボで幕をあける。高尾駅に5:30集合なのに、7:00
過ぎても来ない。一橋寮にやっとTELがつながると、まだ寝ていたのとのこと。
一同怒りを通り過ぎて苦笑する、8:00過ぎにやっと登場。さすがにうなだれている内
藤先輩。この合宿中、内藤先輩の口ぐせ「絶対だな!」「必ずしろ!」が流行語とな
る。

13:10 美濃戸 ～ 14:00 美濃戸山荘 天気 ◎

14:50 美濃戸山荘 ～ 17:15 赤岳鉱泉 天気 雪

のんびりと approach。途中で降雪。日没ヘッテンをつけて歩行。

夕食は水たき鍋。たらふく食べて大満足。

12月20日 中山乗越付近で雪訓。

1日中、ピッケルストップ、スタンディング・アックスビレイ、アイゼン歩行の練習。

12月21日 阿弥陀岳アタック 天気 晴

B.C.6:50 ～ 7:35 行者小屋 7:50 ～ 9:20 阿弥陀岳頂上 9:10 ～ 10:35 中山乗越

雪訓 ～ 15:30B.C.

雪崩の恐れ中岳コル手前の沢をすばやく朝早いうちにこえ、阿弥陀岳もアイゼンを

きかせて容易な登り。天気も良く快適

12月22日	6:50 赤岳鉱泉	～	8:00 硫黄岳手前	天気○
	8:10 硫黄手前	～	9:00 硫黄岳	○
	9:10 硫黄岳	～	10:10 根石岳	○ ただし強風
	10:20 根石岳	～	11:30 天狗岳	○
	11:30 天狗岳	～	12:40 中山手前	○
	12:45 中山手前	～	13:35 高見石	○
	14:00 高見石	～	14:40 白駒池	○

偵察時に苦労した道の悪さも、冬は雪で覆われて快適なアイゼン歩行。好調にピッチをかせいだ。

硫黄、天狗頂上付近では、強風にあおられる。耐風姿勢で耐えている。目出帽をしていなかった小野先輩はこころあたりで軽い凍傷をおう。気をつけるべし！

中山から樹林帯に入り、風弱し。

12月23日	7:00 白駒池	～	8:05 中小場山	天気○
	8:15 中小場山	～	9:10 縞枯山	○
	9:20 縞枯山	～	10:40 三ツ岳	○ 強有り
	10:50 三ツ岳	～	11:40 横岳	○
	12:50 横岳	～	14:05 亀甲池	○

縞枯あたりから膝レッセル。井上先輩が黙々と先頭を進む。ずっと三ツ岳あたりまで先頭を交代せず。筆者大いに助かる。ガレガレの岩場をなんなく越え、三ツ岳、横岳の悪路をものともせず、とはいわず、息を切らせてがんばった。そのため早い時間に横岳山頂につく。亀甲池まではあと下るのみ。

ところが、これがトレール無し。おまけに時々またまでもぐるラッセルで一同がつくり。しかし、今度は「絶対だな」の先輩が黙々と先頭を受け持ち、筆者大いに助かる。井上先輩はトレールを踏みはずし、あおむけにひっくりかえって雪にはまってしまった。助けを一年生岩原に求めるも無視されて行かれてしまい、怒り心頭に達す。亀甲池上テントの中、メシをほうばりながら何度も怒る。恐ろし、恐ろし。

井上先輩のサンタクロースのろうそくに火をつけ、下界をしのびつつ、ささやかにクリスマスを楽しんだ。

12月24日	7:00 亀甲池	～	8:00 天祥寺原	天気 晴
	8:15 天祥寺原	～	11:30 蓼科山山頂	晴
	11:45 蓼科山	～	14:10 女神茶屋	晴

信玄街道を1時間程歩いて滝ノ湯へ。タクシーを呼んで茅野駅。全員無事下山。

天祥寺原からラッセルまたラッセル。稜線上にある蓼科山荘までも遠かったが、そこから山頂までも遠かった。蓼科山頂は広い。天気良好のため南八ヶ岳方面をはつきりと眺められる。最終日が一番長くつらい登りであった。

9. 仙丈岳岳沢

12月21～23日 メンバー: 鮎沢(単独)

タイム: 12/21 杉島 7:05(晴)～岳沢越 11:00～岳沢出合 12:20(晴)

22 出合 7:20(晴)～二俣 10:00～大仙丈岳 12:40(○)～北沢長衛小屋 15:30

23 小屋 7:40(○)～甲斐駒山頂 11:00(○)～横手 15:20

10. 穂高岳屏風岩東壁「トリプル・ジョーカー」

12月30～1月2日 メンバー: 浅沼(東大スキー山岳部)、鮎沢

タイム: 12/30 沢渡 7:30(晴)～横尾 15:30

31 横尾 4:30(晴)～ディレットシマ取付 7:00(◎)～二俣テラス 17:00(◎)

←→2ピッチフィックス

／1 二俣テラス 7:00(雪)～一坪テラス 15:20(雪)～(*****)ムルート下降)～横尾 20:30(晴)

2 横尾 10:30(○)～沢渡 16:30

冬期初登。使用ギアは以下の通り。フレンズ 2 セット、キャメロット 4x2、トリプル 1 セット、

ナッツ 2 セット、スカイフック、ナイフブレード 3～4 回、(*****)、

アングル 2～3 回、

HB(細小サイズ)1 回

11. 八ヶ岳広河原沢(井上登山史上最大の汚点となる山行)

井上、恩田(上智)、蛭田(日獣)、山本(明学)

1/5 晴 阿佐ヶ谷～(車)広河原沢林道終点(B.C.)

1/6 晴 B.C.～下山、帰京(他のメンバーはアイス・クライミング)

(1/7 他のメンバー アイス・クライミング後、帰京)

5日の夜、みんなで必至に車を押し、無事テントを張るに至り、翌6日、さあ行くぞという段になってから持って来たと思ったマカルーリジッド(アイゼン)が無い、無い、無い、無い、無い。どこにも

ナイ。アイゼンナシでは何もできず、やたら良い天気の中をひとり下山したのです。部屋に戻ってみるとしっかり置いてありました。せつねー。(唯一良かったのは7日の天皇報道をTVで見ることができたくらいでしょうか。チャンチャン) (井上)

12. 唐沢岳幕岩 参加メンバー 1月15日～16日 鮎沢 内藤

鮎沢氏に冬期登攀に連れていってもらうが、内藤がびびり敗退。

13. 八ヶ岳大同心雲稜ルート雪辱戦(敗退) 井上、恩田(日獣)

1/21 晴 入山 茅野ー赤岳鉱泉(B.C.)

1/22 晴 7:10(出発)ー8:05 取付ー撤退ー12:45 取付ー12:05B.C.ー12:45 裏同心ルンゼへー
14:30 引き返すー16:00B.C.出発 帰京

日本獣医畜産大の蛭田氏と雲稜ルートを狙う。私にとっては雪辱戦である。壁の基部までは順調だったが、おとといまでに降った雪が昨日の好天(及び暖冬)のため解けかけて、それが氷となってベツリと壁一面覆っている。取付までもおっかなく、ボルトとアングル(どちらも後に回収)を打って、そこから15m 井上のリードで進む。しかし、あまりに壁の状態が悪く氷落としにヘキエキとしている内に「こりゃームリだ」と判断し、好天なのに敗退。早々と裏同心ルンゼへ転戦。アイス・クライミングの練習をする。帰りは美濃戸口から茅野まで無名山塾のオネーサマX2とタクシーの相乗り。大同心には3回行って、1回も最後まで登り切っておらず、そのガードの堅さは今時の女子大生を凌ぐものがあるとの認識に至る。 (井上)

14. 八ヶ岳広河原沢三ルンゼ～ジョーゴ沢継続

井上、小早志(青山学院)、加藤(横浜国大)

1/28 晴 (夜行)～茅野駅ー(Taxi)ー原村ペンション上部 4:30(出発)ー6:05 林道終点ー
12:05 三ツ又ー1:50 三段のナメ滝ー2:50(登攀開始)ー5:30 南稜手前(ビバーク)

1/29 晴 10:15(出発)ー12:05 阿弥陀岳頂上ー1:30 赤岳鉱泉ー2:50 ジョーゴ沢大滝ー
4:30(下山開始)ー6:30 美濃戸口、帰京

アイス・クライミングに燃える青学の小早志君と、同初心者者の横国の加藤君と一緒に八ヶ岳は広河原沢三ルンゼに行くことになった。夜更けにTaxiを降り、暗い内からトボトボ歩き出す。他の2人は体力があり、私は既に息切れする始末。林道が終わる頃から明るくなってきたが膝までのラッセルになる。実はこれが長いラッセル地獄の始まりであった。目的の氷瀑はどれもこれも雪に埋没しており、我々は3人交替で、ワカン無しのサッセルを繰り返す、ただひたすら雪の沢を邁進するのであった。暖冬のせいか足元には水流の音がする。9時過ぎ、ラッセル中の井上が左足で氷を踏み抜き川にはまる。さしものプラブーツも全く効果を表さず、一瞬にして靴下まで水

が浸透。凍傷が恐いため敗退も考えたが、スペアの靴下にはき替えてなんとかコト足りる。9:45 再び出発。その後所々氷った草付をダブルアックスで登る場所も。小早志に登ろうとした滝が、彼が近寄った瞬間崩れて大きな穴がぽっかり開くなど、肝を冷やす一幕もあった。三段の滝は埋まっておらず、小早志ー井上ー加藤の順でリードする。その後、ルンゼを詰めるが胸までの雪に阻まれ、ラッセルしている内に日が暮れ南稜へ抜けるのを諦め、ビバーク(といってもギリギリでテントが張れた。落ちないようにザイルを通す)。長時間行動の上、終始ラッセルだったので3人とかなり疲れた模様。就寝が遅くなったこともあって翌日は遅出。2P ザイルを出して稜線へ。眺めの良い阿弥陀岳を越え、昨日の目的地の行者小屋に着いたのは午後になってから。当初登る予定だった三叉峰ルンゼはもちろん諦めており、ジョーゴ沢でアイス・クライミング。大滝は井上がリードするが、上部でアンカーがとれず随分時間を喰った。下りは1P アプザイルンしてから赤岳鉱泉で荷物をまとめ、急いで下ったが美濃戸口に着く頃は真暗になっていた。茅野駅ではいつものドムドムでハンバーガーを2個も買った。今シーズン、このドムドムはよくお世話になっている。秋から数えてこれで7度目のハヶ岳である。(井上)

15. 甲斐駒ヶ岳尾白川西坊主ノ沢

2月7～9日 メンバー:鮎沢(単独)

タイム:2/7 横手 12:45(○)～5合 17:40

- 8 5合 6:35(晴)～西坊主ノ沢出合 9:35(◎)～登攀開始 10:30～終了 12:30(●)
 ～(同下降)～白稜* 17:05(●)
 9 * 7:25(●)～横手 13:50(晴)

隠れた記録が無ければ単独第3登。フリーソロ第2登。

16. プレ春合宿 3月9日～11日 八ヶ岳 赤岳鉱泉

メンバー 内藤 坪井 鈴木

去年の11月に入部した1年の鈴木のとレーニングと、上級生の雪訓をかねて合宿を行った。

9日 晴

AM7:00 美濃戸口。初めての荷物を背負う鈴木は、すこしばて気味だったが、それでも正午頃には赤岳鉱泉に到着した。幕営後、中山乗越で雪訓を行う。PM4:00 帰幕。

10日 快晴

AM5:00 起床。今日も1日雪訓やる。ピッケルストップを中心に時々スタンディングアックスビレイをする。1年のピッケルストップがなかなか止まらないので、結局4:00まで雪訓をやり続けた。

11 日 快晴

AM5:00 起床。今日は昨日の練習の総仕上げで、赤岳アタックである。文三郎尾根より中岳のコルまでは、順調に行く。そこから完全に氷化しており、ザイルをつけてスタカットで行く。3 ピッチ程行くとベルグラ張りまくりの岩稜となり、内藤は下で確保してもらいながらプロテクションがとれぬままいく。その後坪井がくる。二人で話し合った結果、全くの初心者の鈴木を行かせるのは無理という事になり、そこから懸垂で下る。PM3:00 帰幕。下山。

17. 谷川岳ーノ倉沢右壁左方ルンゼ・ニノ沢右壁

3 月 12, 13 日 メンバー: 浅沼(東京大学スキー山岳部)、鮎沢

タイム: 不明 3/12 ーノ沢右壁左方ルンゼ～ニノ沢中間リッジ～東尾根～天神尾根下降～センター

13 ニノ沢右壁～滝沢リッジ～Aルンゼ～天神尾根下降

18. 春合宿 3 月 16 日～21 日 遠見尾根ー五竜岳ー唐松岳ー八方尾根

メンバー 小野 内藤 坪井

16 日 晴れ後曇り後雪

AM8:00 五竜遠見スキー場発。スキーヤーで賑わうスキー場を坪足で横断する。地蔵の頭からは昨日まで降り続いた雪のためしんどいラッセルとなる。小遠見をすぎたあたりから天気が崩れ出し、中遠見辺りで完全にガスる。PM3:00 大遠見のピークとおもわれるところで幕営する。

17 日 晴れ

結果的には、この日行動すべきであった。我々は、前日かなりの雪が降ったため、この日行動を見合わせた。そしてB.Cを西遠見手前まで持っていただけにした。

18 日 大雪

昨日とはうってかわった雪で、二時間ごとにテントの雪掻きをしなければならない。

1 日中沈。

19 日 大雪

沈。

20 日 雪

沈。午後になると雪もおさまってきた。明日の行動を話し合っていると、ラジオから遠見尾根で雪崩があり 1 名が死亡したというニュースがはいってきた。それを聞いて我々は完全にビビリ、下山を決める。

21 日 晴れ

下山。PM1:00 五竜遠見スキー場着。

19. 鹿島槍ヶ岳北壁蝶型氷のリボン

3月18～21日 メンバー: 神沢(東京大学スキー山岳部)、鮎沢

タイム: 不明 3/18 大谷原 6:30～荒沢出合 9:00～天狗の鼻 16:30 フォーストビバーク

19 停滞(雪洞掘りと偵察)

20 雪洞 5:10～氷のリボン取付 6:20～F3 終了 11:00～稜線 11:45～
雪洞 14:00

21 雪洞 8:00～大谷原 12:00

隠れた記録が無ければ、'83年の藤原、中村パーティーの初登以来の第2登。雪は落ちついていたが、氷壁はボロボロで極めて悪かった。使用ギアは、スナーグx4、シュイナードスクリュールx3、ウォートホグx3。

20. ネパール・ヒマラヤ クスム・カングル峰北稜

この海外遠征は日本山岳会学生部の名の下、6大学6名の学生でネパール・ヒマラヤ クンブ山群のクスム・カングル峰の北峰からの全員登頂を目指したものです。正式な報告書は別途につくりますので、ここでは主観的な記述を中心に、その印象をお伝えします。
(井上)

Member : 井上、松原(法政)、遠藤(早稲田)、恩田(上智)、蛭田(日本獣医畜産)、
山本(明治学院)

2/12 本隊出発(松原、恩田、蛭田、山本)

2/19 遠藤、井上出発。ワクワクドキドキ、しかし初めて着くのはタイのバンコクで異常に暑く、ヒマラヤの酷寒など想像もできず、きれいな女性も多く気が緩みっぱなし。

2/20 カトマンズに到着。先発隊は既にルクラに行っている。

| 私達も早く彼らに追いつきたいが、ルクラ・フライトが悪天続きで全然飛んでく
/25 れず本隊先発隊は離ればなれ。おかげでカトマンズ観光が充実してしまう。登山
道具店の女の子やると仲良くなる。同峰南面を狙う早大のナチュラルポット隊や
コンデリを狙う青学隊とも、そしてトレッキングに来ていた日本人達とも交流を
深める。しかし来る日も来る日もルクラ・フライトは飛ばず、失意の中、今日も
spring roll(春巻)を食べるのだった。生ものは全く口にできなかったのだが、ご多
分に漏れず私も下痢になってしまう。わけのわからない日々だった。

2/26 ○ ようやくルクラへ。本隊の泊まっている宿は病原菌の巣窟で4名全員が1度は
| 風邪になり、我々2名が着いた時もO嬢が寝込んでいた。こんな所に居ては元氣

- 3/1 な体もダメになってしまうと判断。○嬢には悪いが一足先にキャラバンを始める。キャラバンは牛を追い追いのんびり歩く。快晴温暖軽装平坦な道と異常に快適で、こんな楽しい山登りがあるのかと我を疑る。2日目ぐらいには急登があるが、高度順応のため意識してゆっくり登る。ヒマラヤの白い峰がとてもきれいだ。しかしそれとは裏腹に6日間の遅れは登頂の大きな障害であり、夜毎話し合いがなされた。
- 3/2 ○ 氷瀑の裏側をくぐったりして、この日ようやく B.C. (ベースキャンプ. 4200m) に到着。テント場をつくるもこの高度となると一苦勞ですぐ息が切れる。荷物も運んでいる内に頭痛、更に微熱を感じ出す。風邪か高山病か。さっさと眠るに限る。(尚、松原、恩田は体調悪く遅れている)
- 3/3 ○ 熱も下がり本日早速荷上げ開始。しかし私は途中で体がダルくなり、C1 (キャンプ1) 予定地まで行かずに1人 B.C.へ。夜には4名+雇っているシェルパ3名で夕食。スケベな話というのは言葉の障害などものともせず、毎晩この手の国際親善を確かめ合う。
- 3/4 ○ 本日は私は休養とする。そのかわり装備係として荷物のチェックを行い、寝る間など無かった。荷上げに向かった3名は、目の前でナダレを見てビビってしまう。
- 3/5 ○ 完全な体調ともいえなかったが、ゆっくりマイペースで荷上げをしている内に調子も良くなる。セルフ・コントロールのたまものである。夕方 B.C.に戻ってゴロゴロしていると松原、恩田がやって来る。晴れて B.C.に全員がそろろう。また、この日だったかに下の村でうつされたノミ退治を行い、ほとんど素裸になって服を虫干し。寒いよ～。
- 3/6 ○ C1(4700m) 建設。C1 で整地している最中は頭痛と疲労が激しく、早く B.C.に降りたかった。たまらん。
- 3/7 ○ 荷上げ。私は絶好調で、途中でバテた恩田の荷まで持つも平気である。「荷上げ3日目の法則」は正しいか？
- 3/8 ○→晴 今日も荷上げ。もうメンバーの半分はC1へ上りルート工作をしている。私も早くC1に上がりたいよー。夕方テントでハーモニカを吹く。
- 3/9 ◎→晴→雪 本日は少々ダルイので休養とする。ずーっと晴れ続きだったが、今日になって雪が降り、2cm程積った。私はテントでひたすらハーモニカの練習をする。サディスティックミカバンドの「黒船」、大貫妙子の「若き日の望*」、「新しいシャツ」、RCサクセションの「僕の好きな先生」、喜納昌吉の「ハイサイおじさん」、小口太郎の「琵琶湖周航の歌」等が吹けるようになる。他のメンバーからノミをうつされるのを恐れ、別のテントに移る。
- 3/10 晴 荷上げ。C1の3名(遠藤、蛭田、山本)が大落石群に遭い、ほうほうの体でC1に戻って来る。「あと1ピッチで稜線(北稜)だったので……。あー山は偉大だ。」とクスムの頂を仰ぐ5年生の遠藤氏の姿が印象的だった。幸い大ケガをす

る者も無かった。しかし、石1個がひとかかえもある大きさだったという。もし当たっていたら・・・。

- 3/11 ◎→雪 待ちに待ったC1入り。明日からは頑張るぞーと意気込むが、夜になって雪がどんどん積り出し不安を覚える。灯油コンロの調子が悪く、テントの中は頭痛地獄、泣の嵐。のどもヒリヒリ。
- 3/12 雪 景色は一変して辺り一面、白の世界になっていた。C2（キャンプ2）へのルート工作は終わっていないので、途中までの荷上げを行う。この日もテント内は不調のラジウスのため気化した灯油が充満。ついに恩田と松原は寝込んでしまう。明日はいよいよルート工作を行う。『手袋、ユマール、ルート図、アブミ、バイル、テーピングテープ etc 忘れられないようにしましょう。そして、死なないように。』（3/12 付けの日記から）
- 3/13 ○→晴→◎→雪（夜晴） 蛭田と一緒にルート工作。昨日までにザイル張り終えたところまでザイルを伝ってほとんど休まず登り、えらくしんどかった。4~5ピッチ張って絵に描いたような立派な岩小屋があり、その中をC2（5,260m）とする。時間がまだあったので更に1ピッチ上部に延ばしてからC1に戻る。
- 3/14 ○→雪 蛭田と一緒にC2入りを行う。C1に上がって間もないので高度順応はうまく行くだろうが少々心配である。C2に荷を置き、昨日張った1ピッチより更に上部にもう1ピッチ張り、吹雪いて来たのでいそいそとC2へ帰幕。夜はテントの中で蛭田と角川映画の話に花が咲く。しかし、寝る頃になると咳が出だし、夜中になると止むどころか一層激しくなる。『ヤベエ、肺水腫（急性高山病の一種。生命にかかわる）になっちまったのか』 今すぐ下山するワケに行かず、とにかく翌朝まで体力が持ってくればと祈るばかり。不安でろくに眠れず。
- 3/15 晴れ 朝起きると、食欲の減退、頭痛、咳はあったが充分行動可能は体力はあったので、トランシーバーで松原と相談し、結局、蛭田と一緒にルート工作に出発（たぶん、肺水腫になりかけていたのではないかと思うが、倦怠感は全く無かったので、直ってしまったのだろう。）。昨日までの2ピッチ目は私のリードでスラブから稜上へ抜けるが、大変難しくスラブの中の浅いクラックにハーケンを打ち込み（あまり効いてない）アブミのかけかえのA1。私にはギリギルの登攀となり、抜け出たのはPM4:30頃。帰幕の途中で陽は暮れる。ラストで懸垂下降中、支点が抜けて2m程滑落、同時に足元の岩が大音響と伴に谷間に落ちて行った。ケガは無かったものの、ショックで気が動転する。まっ暗で既に他のメンバーは先に行ってしまう、更に下のザイルは岩角に引っかかってルートに戻って来ず、異常に焦りが募る。『ヤベエ、オレこのままじゃ危ねエ！ 落ち着け、落ち着け・・・。』と、自分に言い聞かせ、一挙一動丁寧に降り、なんとか無事帰幕。極度の緊張の連続のため、テントに戻っても食欲は沸かず、ただ気持ちが悪かった。

- 3/16 晴れ→◎ 昨日で私は連続6日間も行動してしまったので休養のためC2 stay。仲間はルートワークと荷上げ。この日、夜頂上を踏むことは日程的に不可能なことを皆で確認。C2に居た4名は、それでも更にルートワークを続けることを主張したので、翌日も今までと同様に登ることにする。別に落ち込むことは無かった。私は頂上ではなく、ルートを味わうことにこだわっていたから。
- 3/17 晴れ この日も他のメンバーとルートワーク。5ピッチ延ばし、5,550m地点までたどり着く。下りで恩田が懸垂下降のトラバース中、横のハーケンが抜け、4m程滑落。ロープで止まったが、右足をクラックにはさんだまま落ちたので足首を骨折。松原、遠藤そして私が救助にとりかかる。安全な場所に移り、本日はもう遅いので松原が付き添いでビバークにする。私と遠藤はC2に戻る。明朝早く食糧や温かいものを届けてあげよう。
- 3/18 ◎ 全員がビバーク地点を目指す。早く着いた遠藤と私と松原とで恩田を安全に降ろし始める。皆、救助の知識はしっかりしており、安全に関しては問題無く降ろせたのでは無いだろうか。私はこの日、下界の料理が異常に恋しくてしかたがなくなってしまう、食べたいものを日記に記してある。以下。『食事に関して欲望がひどい。もういろんなものがたべたい。チャルメラ、インスタントラーメン、やきそば、ポン酢しょうゆで水炊き、とり肉←とりの唐揚げ（レモンかける）、たつた揚げ・ケンタッキー、ブタの角煮、カツ、さし身、すし、トロ、鯛、天井上、もりそば、白米、ポテトチップ、やきししゃも（レモンをチュッとかける）、さんま+しょうゆ+レモン+白米、ゆでめん（すっぱい汁でつけてたべる）』（恩田さんごめんなさい）
- 3/19 ○ 恩田を降ろす救助作業、C2からC1へ。皆で交替で彼女を背負い、確保しながら降ろすのは昨日と同じ。途中で私と遠藤はC2へ戻る。帰幕後、2人ともチャクパ（大便）をするも、そろって難産。その反動で遠藤は気持ち悪くなって寝てしまう。夜は古典の話をする。キミノユク ミチノナガテヲ クリタタネ ヤキホロボサン アメノヒモガモ。
- 3/20 ○→◎ 朝の内、我々2人ともC1へ同流し、全員で恩田を降ろす。本日は雪上が多いので搬送を行った。毎年雪上訓練で行っていた訓練が、今ここで役に立つ。下の方になると、ラッセルをしながら引きずるのでかなりしんどい。雪が少なくなつてからは交替で背負い、ガスった平原をつきつて無事B.C.へ。阪大隊のFさんが医者のおで彼女の足を診てもらう。ウーン、実学は有難い。オレなんか得体の知れない社会学だからな。
- 3/21 晴→◎ ヘリコプターが来ると思っていたのだがスッポカされた。全員B.C.にて。
- 3/22 晴→◎ 朝のんびり朝食をとっているとヘリコプターが来たので、恩田と付き添いの遠藤と蛭田は大あわて。恩田の食べる間の無かつたはずの玉子焼きを、ヘリに乗り込む寸前の遠藤はペロリと食べてしまい、ほんの2~3時間後にはカトマンズのう

まいメシが食える身分のくせに何故我々にこんなごちそうを残してくれんのだと超激怒する。残るメンバーは C1、C2 の荷物の回収に行く。B.C.を出発すると辺りを覆っていたガスが晴れ、登山を始めた頃は雪面だったところが、薄っすらと緑がかかった植物で埋めつくされていた。山本が「20 日間もいたんだもんなあ」と一言。あと2日間生き延びるぞ。この日は C1 泊。

3/23 晴 風が強くてびっくりした。C2ピストン後、パッキングして B.C.を目指すも、ザックが膨大になり、下りに恐怖すら感じる。今まで歩いていた雪渓上の道は春のせいかわが流れ、所々踏み抜いてしまう。一度はまるとザックの重さや大きさが相当悲惨である。日が暮れた頃、へろへろになった身で這うようにして B. C. 着。登山活動最終日の感傷を全く許さないシビアな幕切れは、なかなか嬉しいものがあった。

3/24 晴 B. C. 泊。帰る準備。

3/25(◎) 26 帰りのキャラバン。下界の村に戻ると、畑の萌黄色が目眩しい。モンジョの館ではチャンをたくさん勧められたので顔は赤くなり、婆さん連中に笑われる。のどかな帰りのキャラバンは、路傍の桃の花や新緑の麦や柳に迎えられつつ、ルクラで幕を閉じるのであった。

翌 27 日 ルクラにて山田昇遭難か？の報に接し、カトマンズに着いて馬鹿食いた後、ビールの酔いも醒めやらぬ内に法政大の遭難の知らせを受け、何がなんだかわからなくなってしまう。ひとりの死の知らせなんて酔っている時に受け取るのこそ相応しいのかも知れないなど思いつつ、シャワーで1ヶ月間の汚れと酔いを洗い流す。日本の夏の屋下がりを思わせるカトマンズの空気の中で、ただただこのシャワーは気持ち良い清涼感溢れるものだった。